

野のトツは自然のままに



「愛鳥」の心を考える
○○さんは小鳥好きで、家にはたくさんのかナリやヤマセロなどの入った籠があります。△△小学校には小鳥小屋があって、中にはセキセイインコやムクドリ、オナガ、スズメがいて、よくなっています。――さて皆さん、これはたしかに鳥を可愛がっていることは運ありませんが、私たちは愛鳥の精神とは別のです。カナリヤやインコは、外国から輸入され、長年月に、人間が飼われて家庭化した動物（家畜）呼んでますですから、人間が毎日エサやり水やりえ、掃除をしてやり――つまり家禽は籠の中で生まれ死ぬまで、人間手を離れては生活できないようになった動物なのです。

しかし、メロやムクドリ、スズメは達

います。野山を自由に飛びまわる野生の

動物です。どんなに敵がいても、彼ら

は自然子、まったく自由の毎日を送る

べきなのです。美しい鳴き声を聞き

姿や行動を見て、私たちがいただな、か

わいなど、感じるからといって、これら

の野鳥をとらえ、籠の中にこめて

エサを出せることが、ほんとうの愛鳥に

なるのでしょうか。

野のトツは野に自然のままに

野のトツがすむ所を考えてみても、それは他の生物、植物や虫やいろいろな動物がいっしょに生活していることは、古知でしょ。これらの野鳥たちは日本自然の中、森や畑の害虫を食べるのです。自然の中、とりたちに自由の目で見えて、私たちは、とても大切なる役割を果たしてくれる有益な動物なのです。ですから、自然のバランスを保つことは、自然の員であるヒトの生活もまた、おびやかされることにながつてゐるのです。

愛鳥の心。それは野鳥を籠にじこめるのでなく、自然の中で、とりたちに自由な一生を送らせることがあり、そのための自然を、じつはもう二つ以上、こわなない工夫しなければなりません。

野山のとりたちが、自由に飛び回り、私たちの庭や学校や公園でやってきて、美しい声をきかせてくれたり可愛い姿を見せてくれたり、そしてやがて、私たちの肩の上にとまって、仲よく遊べるよつ世界にすることがあります。本当に鳥だと思ひます。

日本野鳥の会は、野鳥を守るために自然を大切に、森林保護、開拓抑制、フィード活動などを継続しておる組織です。野鳥の好きな方で、ごくごく少しこれぞれ金の力がなるべく、50円切る

左記お送りください。貢献をおねがします。

〒150 東京都渋谷区渋谷2丁目7-1 第久我ビル

財団法人 日本野鳥の会

●野生のトリを勝手にとったり飼なうすることは法律で禁じられています。

●鳥の巣の中心

●ヒトの巣の巣



●ヒトの巣の巣

法人日本鳥類保護連盟
サントリーリー株式会社

